

平和を学び、考え、発信しよう！

ふくやまピース・ラボ事業

2025年度活動報告集



福山市人権平和資料館

「ふくやまピース・ラボ」とは？

戦争を知らない若い世代が、福山空襲や原爆について学習し、平和について考え、活動を通して平和へのメッセージを発信することを目的に活動しています。2025年度（令和7年度）で発足から11年目を迎えました。



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023



2024

1年間の活動記録

2025年	5月25日(日)	開講式、オリエンテーション ワークショップ「平和をデザインしよう！」 講義「私の平和への取組み」
	6月 8日(日)	講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」
	6月22日(日)	フィールドワーク「市内戦争遺跡巡り」
	7月 6日(日)	講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」
	7月20日(日)	「第71回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に向けて
	8月 5日(火)	「第1回全国平和学習の集い」参加(広島市内)
	8月 8日(金)	「2025市民平和のつどい・第71回市民平和大会」参加 「第71回原爆・福山戦災死没者慰霊式」参列
	8月24日(日)	講義「被爆体験 父子のわかれ」
	9月 7日(日)	「ピースウォーク」実施に向けて①
	9月28日(日)	「ピースウォーク」実施に向けて②
	10月 5日(日)	「ピースウォーク」実施に向けて③
	10月19日(日)	「ピースウォーク」実施に向けて④
	11月 2日(日)	「ピースウォーク」実施に向けて⑤
	11月 9日(日)	「ピースウォーク」メンバーで実施
	11月22日(土)	「ふくやま人權・平和フェスタ2025」に向けて①
	12月 7日(日)	「ふくやま人權・平和フェスタ2025」に向けて②
	12月13日(土)	「ふくやま人權・平和フェスタ2025」に向けて③
	12月14日(日)	「ふくやま人權・平和フェスタ2025」参加 ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」ボランティア参加
	1月 4日(日)	「福山市人權平和資料館スタンプラリー」ボランティア参加
2026年	1月18日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアート2025」の制作①
	2月 8日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアート2025」の制作②
	3月 1日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアート2025」の制作③
	3月15日(日)	修了式
	3月28日(土)	講義「私の被爆体験と旧広島陸軍被服支廠」

活動報告（全24回）

第1回（5.25）開講式／オリエンテーション／講義「私の平和への取り組み」



「平和について学び、考え、発信していこう！」と新メンバーが加わり、ふくやまピース・ラボ11年目の活動がスタートしました！

メンバーそれぞれが、「ふくやまピース・ラボの活動で取り組みたいこと」や「平和のために私たちができること」について考え、発表しました。

■これからの活動で取り組みたいこと

- 戦争や平和について、様々な世代に発信したい。
- 福山空襲について、学校での学びを深くしたい。
- 平和な世界を実現するために、戦争が何なのかを学びたい。
- 戦後80年の節目に、平和や戦争について関心を持ちたい。

《感想》

- 世界では、核兵器廃絶の動きについて、肯定だけでなく否定の考えがあることに驚いた。
- 大切なものがなくなることの悲しさを知り、平和が大切なものであると感じた。
- 核一つの威力が、想像していたものよりも大きくて驚いた。
- 佃さんの講義を聞いて、「微力だけど無力じゃない」という言葉がすごく印象に残った。



▶ 講師：佃 和佳奈さん
(ふくやまピース・ラボ第9期生、第27代高校生平和大使)

第2回（6.8）講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」



福山空襲の実相や戦時中の生活の様子（食糧不足、配給、学徒動員、学童集団疎開、服装）などを、当時の写真を用いながら分かりやすく説明していただきました。

《感想》

- 現在のロシア・ウクライナ問題やイスラエル・ガザ問題にも通ずる部分があり、戦時下の思考を知ることができた。
- 北村さんが言われた「戦争のとき苦しむのは国民で、終わった後もずっと苦しいのが戦争」という言葉にハッとされた。

▶ 講師：北村 剛志さん
(元人権平和資料館副館長)

第3回（6.22）フィールドワーク「市内戦争遺跡巡り」

備後遺族会館において、遺品の見学及び硫黄島での遺骨収集のお話を聞いた後、備後護国神社などの現在も残っている戦争遺跡を巡りました。

この街で起きた悲惨な空襲のことを学び、感じることができました。

《感想》

- 教科書では学べないことを知れて、貴重な体験だった。
- 戦地に赴いた兵士の方々の悲惨な状況を聞き、戦争の無謀さ愚かさを目の当たりにした。



第4回（7.6）講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」

防空壕へ逃げ込んだ時の様子や翌日の市街地の様子など、福山空襲の体験や戦前、戦中、戦後の暮らしなどについて、話をいただきました。

《感想》

- ・実際に経験された森近さんからしか聞けないであろう防空壕や食事の話が印象的だった。
- ・当時の状況や生活を詳しく話していただき、戦争の中を生きていた人たちの気持ちに少しでも近づくことができたのかなと思った。

写真：アーチ型の建物は当時の防空壕（ボイラー）と第二工場、火がくまっていた様子が見えます



▶ 講師：森近 静子さん
（ふくやまピース・ナビ会員）

第5回（7.20）「第71回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に向けて

8月8日（金）17時30分から中央公園で行われる「原爆・福山戦災死没者慰霊式」で、昨年に引き続きふくやまピース・ラボのメンバーが「追悼のことば」を述べることになりました。

当日に向けて、役割分担を行い、メンバーそれぞれが伝えたい平和への思いや願いを込めたメッセージを考えました。

第6回（8.5）「第1回全国平和学習の集い」参加

広島市で行われた「第1回全国平和学習の集い」に参加し平和学習を行いました。広島市で活動する、ユース・ピース・ボランティアのメンバーによる原爆被害の概要説明を受けた後、被爆体験講話を聴講しました。そして、全国から集まった同世代の中・高校生と「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けましたか。」「今、平和でない状態とはどのようなことがありますか。それはどうしたら解決できると思いますか。」の2つのテーマについてディスカッションを行いました。平和のために学び、行動している同世代の中・高校生の意見を聞き、今までより深く平和について考えることができました。

午前中は、被爆建物や広島平和記念資料館などを見学し、原爆の恐ろしさ、被爆の惨状を学びました。



第7回（8.8）「2025市民平和のつどい・第71回市民平和大会」ボランティア参加 「第71回原爆・福山戦災死没者慰霊式」参列

2025年8月8日、1945年8月8日の「福山空襲」から80年を迎えました。

世界の平和と人権の尊さについて考えることを目的に開催されている「2025市民平和のつどい・第71回市民平和大会」にイベント会場の設営ボランティアや、缶バッジ・折り鶴・折りばらのサポートボランティアとして参加しました。

また、「第71回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に参列し、ふくやまピース・ラボを代表して4人が「追悼のことば」を述べました。

「（前略）「私たち一人ひとりが絶対にすべきことは、2つの意思を持つことだと思います。1つ目は、何があろうと戦争を否定できる意思。2つ目は、戦争と核兵器をこれ以上先の未来に存在させないという意思です。この2つの意思を持たなければ、人類は、近い将来、自分で自分を滅ぼすことになると思います。私は、ピース・ラボの活動を通して、これらの意思をより強固なものとし、行動していきたいと思います。」など、メンバーそれぞれの熱い思いをまっすぐ伝えることができました。

その後、折り鶴献納と献花を行い、無事に慰霊式を終え、平和への誓いを新たにしました。



第8回（8.24）講義「被爆体験 父子の別れ」

1945年8月6日、広島市で被爆した時の様子や、当時5歳の廣中さんとお父さんの別れについてお話していただきました。

《感想》

- ・廣中さんが言われたように、実際に原爆を経験していない人がこれからは伝えていく必要があります、私自身もその一人になれるように、もっと勉強していきたいと思った。
- ・原爆で被害にあった方や亡くなった方、残された家族の気持ちを考えると、自分事のように胸が痛んだ。



▶ 講師：廣中 正樹さん
（広島平和文化センター 被爆体験証言者）

第9回・第10回・第11回・第12回・第13回 「ピースウォーク」実施に向けて (9.7 / 9.28 / 10.5 / 10.19 / 11.2)



福山城公園やその周辺に残る戦争遺跡を歩いて巡り、福山空襲などについて理解を深めてもらうことを目的に開催する「ピースウォーク」に向けて準備を行いました。

本番に向け、役割分担を行い、マップの作成や参加記念品づくりなどの準備を進めました。自分が説明する戦争遺跡の説明原稿を考え、事前に戦争遺跡を巡り、当日参加して下さるみなさんにしっかり伝えられるよう練習に取り組みました。

第14回（11.9） 「ピースウォーク」メンバーで実施

今年度の「ピースウォーク」は、雨天で中止となりました。そのため、今年是人権平和資料館内において、ピース・ラボのメンバーが、これまでの準備期間で学んできた福山空襲のことを、他のメンバーに説明しました。その後、実際に説明場所を巡ることで、戦争遺跡を間近で見ることができ、福山空襲の悲惨さを実感することができました。

「ピースウォーク」の取組みを通して、福山に今なお残る戦争遺跡を知り、戦争や平和について考えていくことの大切さ、私たちの活動にどのような意味があるのかを改めて考え、理解することができました。



高野山福山別院

土橋

光善寺



水野墓地

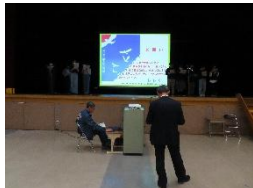
安部和助別邸

備後護国神社



第15回・第16回・第17回 (11.22/12.7 / 12.13)

「ふくやま人権・平和フェスタ2025」に向けて



今年も「ふくやま人権・平和フェスタ」に参加し、ステージ発表と模擬店の出店を行いました。第15回から第17回は、本番に向けて、ステージ発表の練習と模擬店の準備を行いました。

第18回 (12.14)「ふくやま人権・平和フェスタ2025」参加

午前中に1階ロビーで「ピースコーン」(ポップコーン)の模擬店を出店し、みんなで協力して「ピースコーン」作りと販売を行いました。多くの方のご協力のおかげで完売した「ピースコーン」の収益金は、「ユニセフ」等に寄付することができました。

そして、10時35分頃からのステージ発表に向けて、本番直前まで練習や確認を行いました。ステージ発表では、「広島原爆5歳10か月の体験 家族の記録『父子のわかれ』」の朗読を、心を込めて行い、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを発信しました。



第18回 ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」 (12.14) ボランティア参加

午後には、広島県ユニセフ協会の「ハンド・イン・ハンド募金」に参加しました。ユニセフとユニセフ協会は、すべての子どもたちの命と権利を守るため、最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、約190の国と地域で活動しています。今、支援を必要とする子どもたちのために、支援を呼びかけました。

皆さんの、たくさんのご協力、ありがとうございました！

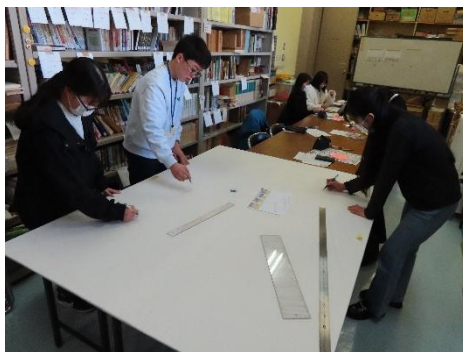


第20回・第21回・第22回 1年間の活動を振り返って (2026.1.18/2.8/3.1) ～「ピースアート2025」の制作～

私たち「ふくやまピース・ラボ」の1年間の活動の様子を記録した写真と平和へのメッセージ写真を組み合わせピースアートを制作しました。ピースアートのデザインは、メンバーそれぞれが考えたものの中から投票で決定しました。私たちの活動を多くの方に知ってもらおうと、心を込めて制作しました。

完成したピースアートは、今年も「まなびの館ローズコム」のエントランスホールに展示しています。

〈展示期間〉2026年4月1日(水曜日)～5月8日(金曜日)



第19回 (1.4) 「福山市人権平和資料館スタンプラリー」ボランティア参加

福山市人権平和資料館でスタンプラリーが行われ、ピース・ラボがボランティアで参加しました。

ピース・ラボのメンバーは、参加者に対して、館内の展示の説明を通して、これまでピース・ラボ活動の中で学んできた福山空襲や戦争の恐ろしさ、平和の大切さについて説明しました。



第20回 (1.18) 英数学館高校とのワークショップ

英数学館高校とローズウィンドウのワークショップを行いました。ローズウィンドウとはばらをかたどったペーパークラフトです。英数学館高校は、ばらが福山の戦後復興のシンボルであることから、このワークショップを通じて平和を願う気持ちを広める活動を行っています。

ピース・ラボメンバーもローズウィンドウの制作を体験しました。



第23回 (3.15) 修了式

福山市人権平和資料館の西岡館長から、メンバー全員に参加証書の授与を行いました。メンバーは活動を終えての感想を発表しました。

《感想》

- ・ピース・ラボに参加して、福山空襲のことや原爆のことを今まで以上に学べた。来年も参加したい。
- ・ピース・ラボで空襲や原爆の体験者の生の声が聞けたことが貴重な経験となった。
- ・ピース・ラボは、楽しかった。全国の人たちと関わっていく中で、もっと自分から学ぶ姿勢を持ち、相手に対して発信できる人になりたいと思った。



特別企画 (3.28) 3月28日体験活動 in 広島 extra

特別企画として、広島市へ研修活動に行きました。

おりづるタワーの見学をした後、被爆体験証言者である切明千枝子さんのご自宅に伺い、戦時中の女学生や学徒動員、原爆による被害の実相といった講話をお聞きました。

《感想》

- ・「平和は油断するとすぐに消えてしまうもの。だから自分たちで一生懸命つかんでおかないといけない。」という切明さんの言葉がとても印象に残った。
- ・今まで、実相については知っていたが、「政治」「加害」の部分についてはよく知らなかった。切明さんのお話を聞いて、当時の政治や情勢について学ぶことができ、平和学習の大きな一歩になった。
- ・今、戦争の怖さがなにもない日本で生きれていることを当たり前ではないと改めて認識し、平和をしっかりとつかんでいきたい。
- ・今までの被爆者の方のお話とは違い、当時の状況や人々の間に流れる雰囲気も加味されたうえでのお話で、「現実で本当にあったことなんだ」と改めて強く感じさせられた。
- ・自らの手でなくなっていく下級生を焼かれたお話は私の中に深く残った。私が自分の手で後輩を焼くのは何度想像しても恐ろしく信じられなかった。



2025ふくやまピース・ラボの活動を終えて

加藤 紗奈（中学校3年生）

今年1年間活動してみて、今まで詳しく知らなかった戦争の恐ろしさについて深く理解できました。一番心に残った活動は、広島に行って全国の中高生と交流したことです。戦争による各地の被害や考え方をたくさんの人と話すことで、今まで知らなかった出来事や当時の様子などを知ることができ、新しい発見もありました。何年前かに読んだ戦争の本を戦争について学んだ今、読み直してみると感じ方が変わっていると思います。

永戸 わか（中学校2年生）

私は、今年でふくやまピース・ラボに参加して2年目になります。今年は自分で集めたお金で支援のプレゼントを考える機会があり、自分の選択が誰かの命につながるかもしれないと感じ、本当に何が必要かをとても悩みました。そして、寒い中での募金活動は忘れられません。正直とても寒くて大変でしたが、立ち続けることで「平和は願うだけじゃなく、行動するもの」だと感じました。この1年の活動で気づいたことを、今度は同世代に伝えて、平和の輪を広げていきたいです。

株本 海環子（高校1年生）

私は今年、例年の活動だけでなく、ラボを代表して活動をしました。北九州市の活動では、国立市、堺市、北九州市の方々と交流し、各都市の戦争や、平和への取り組み、未来への継承について話し合いました。瀬戸町での講演会では、ピース・ラボの活動報告を行い、今後の自分たちの取り組みや考え方について話しました。どの活動も、私の平和への考えを深め、良いものにしてくれました。来年もまたピース・ラボに参加したいです。

立古 圭市（中学校3年生）

僕は、初めてピース・ラボの活動に参加しました。初めは被爆者の方の話を聞き、福山空襲や原爆について学びました。その後、市内の遺構を巡りました。福山城の石垣に残る火災の跡や、大念寺の焼夷弾の痕跡、そして倒れた民家の火と熱風で歪んだ土橋など多くの空襲遺跡を目の当たりにし、強い衝撃を受けました。旧安部和助別邸跡や慰霊碑の前で、日常生活では気づかなかった「あの日」の記憶が、今も街のあちこちに静かに刻まれているのだと実感しました。この目で見つけた歴史の断片を忘れず、平和の尊さを次世代へ繋いでいきたいです。

二宮 孝太（高校2年生）

私は今年初めてピース・ラボに参加しました。この1年で戦争や平和に関する知識を今まで以上に深めることができたのと同時に、普通に生活しては味わえないような貴重な体験をすることができました。八月の慰霊式で、参列した方々に自分の平和に対する考えを発信できた経験は一生ものです。ここで得た経験や知識は生涯大事にしていきたいと思います。

舟橋 遙香（高校2年生）

私がふくやまピース・ラボの活動で最も記憶に残っているのは、ヒロシマ「第1回全国平和学習の集い」です。私たちと同じように平和活動をしている全国の高校生と話し合ったり、被爆者の方のお話を聞くことを通して、平和について考えるという貴重な経験をさせていただきました。この交流で、全国の参加者の皆さんの「平和について伝え続けたい」という強い思いを感じ、私も平和について考え続けることを止めないでいきたいと改めて自分が平和活動を始めるに至った最初の気持ちを再確認できました。

吉田 玲衣奈（高校2年生）

平和については、これからもずっと考えていかなければなりません。それは私たちの義務であり、権利です。ロシアによるウクライナ侵襲や、アメリカによるベネズエラ攻撃など、世界は着実に第三次世界大戦に向かっていて私は考えます。本当に一人ひとりが「私」の平和は何か、どうすれば良いのかを考えることが重要だと考えます。これからもピース・ラボで学び、考え続けたいと思います。

砂川 憂奈（高校2年生）

私は、今年初めてふくやまピース・ラボに参加しました。戦争のことは、福山に転居して以来興味を持っており、平和活動として何かできないかと思い見つけたのがこの活動でした。ラボのメンバーは、私よりはるかに平和への願いが強かったので、被爆者にもメンバーにも尊敬の気持ちを持ちました。今後福山でこのようなイベントがある際には、微力ながら私なりの方法で支援したいと思います。



松下 桜子（高校3年生）

私はこの1年間、ふくやまピース・ラボに参加しました。参加する前は、戦争を他人事のように感じていましたが、福山空襲を実際に体験された方の声を生で聞くと、とても身近に感じ、自分に何が出来るのかを考えるようになりました。

終戦から80年経った今、だんだん福山空襲の記憶の風化が進んでいます。そんな今だからこそ、福山市の学生が平和の大切さ、戦争の恐ろしさを知り、福山空襲を伝承していくべきだと思います。ぜひ多くの方がふくやまピース・ラボに参加してほしいと思います。

永戸 あみ（高校1年生）

私は、今年でピース・ラボは3年目になりました。被爆者の方々の証言を聞き、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて実感しました。自分なりに考えを整理してもなお、理解しきれない重みがありました。また、ユニセフの募金活動について学び、紛争下の子どもたちに何が必要かを多角的に考える貴重な機会となりました。平和の実現には、多方面からの働きかけと多くの声が不可欠です。私も主体的に発信し、平和の輪を広げていきたいです。

荒木 香帆（高校2年生）

今年度のピース・ラボの活動を通して、私は、戦争は体験していないからこそ、知ろうとする姿勢が大切だということを強く感じました。私たちの世代は戦争を直接経験していません。だからこそ、体験された方の講演や福山空襲にまつわる絵本の朗読活動から学び、その思いを受け取る責任があるのだと思います。戦争を知らない世代が無関心になるのではなく、学び続けることこそが、平和を守る第一歩なのだ実感しました。これからも、知ろうとする姿勢を大切にしながら、自分にできる行動を積み重ねていきたいです。

木坂 明愛（高校2年生）

私は、初めてふくやまピース・ラボに参加しました。改めて戦争の恐ろしさを感じ、今、平和に暮らせているのは当たり前ではないと強く思いました。実際に体験した話に触れることで、戦争や平和について深く考えるきっかけになり、その方々の思いを後世に繋いでいきたいと思いました。また、この活動を通して、普段なかなかできない貴重な体験をすることができました。この経験を忘れずに、これからの人生に活かしていきたいです。

佃 和佳奈（高校3年生）

私は3年間ふくやまピース・ラボに所属させていただきました。平和や戦争について何か学んでみたいと思ったときに、すぐ身近にラボのようなコミュニティがあったことは、私にとって大きな転機でした。ここで学んだことが土台となり、さらに深く平和活動に取り組むきっかけとなりました。また、最近ではラボ卒業生の先輩方と活動させていただくこともあり、こうしてずっと繋がりをもちながら発信していくことに、活動の輪の広がりを感じています。私は今年度で卒業ですが、今後も自身の生活を通して「へいわ」を作る人であるよう、試行錯誤を続けてまいります。

吉田 絵玲奈（中学校3年生）

今年でふくやまピース・ラボに参加して3年目になります。私は今年度、平和の知識を増やすことで、自分が満足できるだけの意見を発表できるようになることが目標でした。初めて広島へ行き、原爆ドームや平和公園を訪れました。さらに、日本中で平和活動を行っている同世代の人達とディスカッションをしました。その時、私は自信を持って積極的に意見を発信することができました。来年度も平和活動に参加して、自分の考えを深めたいです。

石岡 梓（中学校1年生）

私は、今年初めて「ふくやまピース・ラボ」の活動に参加しました。私が一番印象に残っている活動は「ピースウォーク2025の当日」です。当日は天候の影響で中止にはなりませんが、天候回復後、ピース・ラボのメンバーでピースウォークのルートを歩き、台本も読めたことが一番記憶に残っています。実際に一緒に学ぶことができるお客さんたちに来ていただくことはできなかったけれど、それはそれで良い勉強になったかなと思います。





There is no path to peace.
Peace is the path.

～私たちの行動そのものを
平和に～

発行	2026年3月
編集	福山市まちづくり推進部多様性社会推進課 〒720-8501 広島県福山市東桜町3番5号 TEL (084) 928-1235 FAX (084) 928-1229

